

平成16年度センター活動報告

障害児教育実践センター長
我妻敏博

1. 運営委員会及びセンター紀要編集委員会報告

(1) 運営委員会

平成16年度第1回障害児教育実践センター運営委員会が6月16日に開催され, 平成16年度事業計画, 同予算等について協議された。

(2) センター紀要編集委員会

平成16年度第1回障害児教育実践センター紀要編集委員会が平成16年6月16日に開催され, センター紀要第11巻の編集について協議された。

2. 平成16年度の教育相談・教育臨床活動

平成16年4月から平成17年3月までの教育相談実績は, 以下の表A, B, Cに示す通りである。なお, 表には障害児教育講座の臨床実習の授業として行った教育相談, 授業とは別に障害児教育講座及び障害児教育実践センターの教員が個別に依頼されて行った教育相談, 教員や院生が研究のために行った教育相談が含まれている。

(1) 年間相談件数 (表A)

表Aには障害種別ごとの相談件数が示してある。表中の新規相談とは平成16年度に新たに相談を開始した件数であり, 継続相談とは平成16年度以前から相談を継続している件数である。新規相談の合計は22件, 継続相談は44件で合計66件であった。平成15年度の集計では相談件数合計が64件であり全体の件数は昨年度なみである。障害種別でみると, 「知的障害・ダウン症」が最も多かった。

(2) 年間の相談・指導回数 (表B)

表Bには相談・指導の内容ごとの延べ指導回数が示してある。平成16年度の延べ指導回数は全部で717回であった。平成15年度の指導回数は全部で637回であり, 本年度は指導回数が増加した。平成15年度では新規の継続指導回数が75回だったのに対して平成16年度の新規継続の指導回数が134回と増加したことによる。

(3) 年間相談・指導時間 (表C)

表Cには相談・指導内容ごとの延べ指導時間が示してある。年間延べ指導時間は合計で1029.5時間であり, そのうち検査関係が初期定期合わせて120時間, 継続指導が909.5時間であった。延べ指導時間を延べ指導

A 年間相談件数

障害種別	新規相談	継続相談	計
肢体不自由・重症心身	1	7	8
知的障害・ダウン症	10	11	21
難聴・聾	2	5	7
言語障害	3	7	10
自閉症・情緒障害	3	2	5
学習障害	0	1	1
視覚障害	1	6	7
その他	2	5	7
合計	22	44	66

新規相談…今年度より新しく教育相談を行ったもの

継続相談…前年度より引き続き教育相談を行ったもの

B 年間相談・指導回数 (延べ指導回数)

指導内容	新規相談	継続相談	計
初期相談 (検査)	7	-	7
定期相談 (検査)	33	40	73
継続指導	134	503	637
合計	174	543	717

初期相談…初回相談(検査)のみ行ったもの

定期相談…数ヶ月に1回教育相談(検査)を行ったもの

継続指導…月1回以上継続して教育相談を行ったもの

C 年間相談・指導時間 (延べ指導時間)

指導内容	新規相談	継続相談	計
初期相談 (検査)	13.5	-	13.5
定期相談 (検査)	50.5	56.0	106.5
継続指導	216.5	693.0	909.5
合計	280.5	749	1029.5

回数 (表B) で割ると平均は1.4時間となり, 1回の相談・指導時間は1~2時間である。

3. 研修活動

(1) センターセミナー

◇第69回センターセミナー

日時 平成16年11月12日(金) 17:30~19:30

講演者 太田昌孝 (東京学芸大学教授)

演題 「自閉症児の理解と指導法」

参加人数 141名

*第69回セミナーは「国立大学法人障害児教育関連施設・センター連絡協議会」の共催で開催された。

◇第70回センターセミナー

日時 平成16年12月18日(土) 14:30~16:30

講演者 柘植雅義（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課・特別支援教育調査官）

演題 「特別支援教育の理念と施策の動向」

参加人数 76名

◇第71回センターセミナー

日時 平成17年2月5日(土) 14:00～16:00

講演者 宮崎英憲（東洋大学教授）

演題 「個別の教育支援計画の活用：特別支援教育に携わる教員の資質と専門性を中心に」

参加人数 107名

(2) 各種研究会・講習会

平成16年度に本センターを会場に開催された研究会・講習会等は以下の通りである。

◇7/3 新潟県特別支援教育学習会

◇7/5 上越地区特殊教育懇談会

◇7・8月 新潟県認定講習会

◇8/2 平成14年度附属学校初任者研修会

◇8/18 上越障害児教育研究会主催研修会

◇月1回 上越青年の休日を充実させる会

◇隔月 上越自立活動研究会

◇隔月 通級担当者学習会

4. 地域貢献活動

(1) 研究生の受け入れ

新潟県（1名，期間1年），鳥取県（4名，期間6ヶ月）から研究生を受け入れた。研究生にはそれぞれ指導教員がつき，それぞれの研修テーマにもとづいて指導を受けるとともに，障害児教育講座の授業の聴講，臨床指導への参加などを行った。

(2) 地域支援活動

◇新潟県就学指導委員会委員

◇新潟県教育職員認定講習会講師

◇新潟県初任者研修講師

◇新潟県内特殊教育諸学校職員研修会講師

◇新潟県教育相談運営会議委員及び教育相談委員

◇新潟県保健所療育教育講師

◇上越障害者福祉推進連携協議会（会長，部会長）

◇上越市就学指導委員会委員

◇上越障害児教育研究会顧問・講師

◇上越市こども発達相談室講師及び保育所巡回指導

◇大潟町第2保育所保育士研修講師

◇新井市障害児通園事業「ひばり園」の職員研修講師

5. 刊行物

上越教育大学障害児教育実践センター紀要第11巻を

平成17年3月に刊行した。

6. センターの利用状況

当センターは障害児教育講座と一体となって，主として障害児教育専攻の大学院生に対して，実践的・臨床的な活動の場と機会を提供してきた。教育臨床実習，実践場面分析演習など，幅広くかつ活発に利用されている。平成16年度の利用状況は以下の通りである。

(1) 教育臨床実習

障害児教育講座の授業科目「障害児教育臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「障害児応用臨床実習Ⅰ・Ⅱ」は，その多くを前述の教育相談活動と関連づけて当センターで実施されている。上記4科目は，盲・聾・養護のそれぞれの分野で実施するため，週あたり合計12コマの教育臨床実習が組まれた。

教育臨床実習では，臨床後に当センター内のビデオ分析装置などを活用して行動や動作分析を行い，ケースカンファランスを実施した。

この他にも，センター及び障害児教育講座の教員が，授業としての教育臨床実習とは別に，センターの施設設備を利用して教育相談を多数回実施した。

(2) 実習授業

本学大学院の授業科目である「実践場面分析演習『障害児教育』」では，地域の養護学校において授業を実施させていただき，当センターのAV機器を活用して授業分析を行った。

授業科目「障害児心理・生理検査法」では，当センターにある教材や検査用具，施設設備を活用して，様々な検査法や心理学的実験を実施した。

(3) 講義やセミナー

情緒障害児指導法，障害児研究法，障害児研究セミナーなどの講義やセミナーが本センター研修室及びカンファランス室を利用して実施された。

7. その他

(1) 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会への参加

平成16年9月12日(日)に早稲田大学で開催された日本特殊教育学会第42回大会の折りに，連絡協議会が開催された。当センターから我妻敏博教授が参加した。各施設・センターの活動状況について種々情報・意見の交換が行われた。

(2) 広報活動

新潟日報社「NICかわらばん」(No.188,2004.12.19)にセンターの紹介記事が掲載された。